

注目のスポーツ 「バスケットボール」

リビングサービス課 大森 カ



今年はオリンピックイヤーであり南米初の夏季オリンピックがブラジル・リオデジャネイロで開催されるとあって、スポーツ界が注目を浴びています。オリンピックには陸上競技、水泳、体操、サッカー、テニス、ボクシングなど多くの競技があります。そのなかにバスケットボールがあることはあまり知られていないのではないでしょうか？

私は学生時代バスケットボール部に所属していました。練習がきつかった記憶はあるのに対し、試合では勝った記憶がない…あまりいい思い出がないのが正直なところです。

あれから〇〇年、私の子供2人がバスケをしたいとのことで一人は部活動でバスケットボール部に、もう一人は上野ミニバスケットボールクラブに所属しています。二人ともバスケが大好きな様で練習に励んでいます。保護者の立場としては試合で勝って楽しい思い出となるよう応援しています。

ところで、今年3月に報告された10代の青少年と4～9歳の子どもを対象としたスポーツ実施頻度、実施時間などについての調査結果があります。10代が過去1年間によく行った運動・スポーツ種目の項目で男子の上位は1位 サッカー、2位 バスケットボール、3位 野球 となり、2001年の調査開始以来、初めて野球が3位に後退しました。ちなみに女子は1位 バドミントン、2位 おにごっこ、3位 バレーボール となっています。(笹川スポーツ財団調べ)

上記の調べに裏付けされるように、競技者人口を見ると、競技団体に競技者登録される人数は、サッカーが最も多くて約96万人ですが、バスケットボールは2位で約62万人。3位がソフトテニス約45万人、バレーボール約39万人、陸上競技約38万人の順となっています。スポーツ実施人口で見ると、サッカーは約750万人、野球が約730万人、バレーボールが約650万人、バスケットボールは約570万人です。バスケットボールは野球やサッカーとさほど遜色ない基盤を有しています。理由として若者の野球離れやバスケットボールは天候に左右されない室内競技という強みもあります。

しかし、年間観客動員数で見ると、プロ野球は延べ約2,285万人、Jリーグは延べ約527万人、昨年の日本バスケットボールNBLとbjリーグの2つのリーグを合わせた年間観客動員数は延べ約130万人にすぎません。



ところが、タイミングよく今年9月22日からバスケ男子プロリーグとなる『Bリーグ』が開幕します。過去Jリーグが開幕した時のように期待したいところです。開幕戦はフジテレビ系列の地上波で放送予定、またその後の試合をNHK地上波全国やBSで放送予定です。

過去には神様・マイケル・ジョーダンの活躍と「スラムダンク」の連載開始にも後押しされ、1990年代に空前のバスケットブームとなりました。2009年以降、最近では高校バスケットボールを題材とした少年漫画「黒子のバスケ」の連載、そして今年Bリーグ開幕を機会に、今後日本のバスケットボール界が野球、サッカーに続く第3のメジャースポーツに変身していくことを期待したいと思います。

花火をより一層楽しもう！

ホームガス課 森田 裕樹

初めまして！ホームガス課に配属になりました、新入社員の森田です。

暑い日が続き、私は熱中症にならない様にこまめに水分補給を行い体調管理に気を付けていますが、みなさんはいかがでしょう？

今回は夏の風物詩である『花火』についてです。

夏休みが近づくと、いよいよ花火シーズンとなり各地で多くの花火大会が開催されます。

昨年、私は家族4人（妻のお腹に居た娘）で地元の花火大会へ行き、今年も行くのを楽しみにしています。

それでは花火をより一層楽しめる豆知識をご紹介します。

花火のルーツは実はイタリア！

花火のルーツは「狼煙（のろし）」だと伝えられています。しかし、現代のような色鮮やかな花火はルネサンスが興った14世紀のイタリアで、キリスト教の行事にあわせた見せ物として始まったと言われています。

日本には安土桃山時代の後期、天正17年（1589年）7月に伊達政宗が花火を鑑賞したという記録が残っています。

その後、江戸時代の慶長18年（1613年）8月にイギリス国王のジェームス1世の使者が、現在の静岡県にあった駿府城を訪れた際に、徳川家康に花火を見せたのをきっかけに、日本全国の諸大名を通じて広まったそうです。

花火の色は何で決まる？

花火は使われている火薬の燃焼温度が高いほど明るく光ります。そして色は「色火剤」が燃えることで発色します。

学校で「炎色反応」という実験をしたことを覚えていますか？金属片や金属粉を燃やすことで発生する炎の色で、含まれている金属元素を確かめる実験です。

花火の色は炎色反応の原理を応用して作られています。例えば、赤系なら炭酸ストロンチウム、青系なら酸化銅などが使われています。星くずのようにキラキラと光るのはアルミ、金色に輝く花火にはチタニウムなどが使われています。これらの色火剤を組み合わせることで、多様な色を作り出しています。

打揚花火鑑賞法！

華麗な彩色、すばらしい空間の造形、迫力の音響、夜空に花咲く花火を「ああ美しい」と無心に見るのも花火の一つの鑑賞法です。

けれども日本の打揚花火の場合は、花火の一つ一つに名前「玉名（ぎょくめい）」がつけられており、その花火の内容を表現しています。

玉名が入ったプログラムのある花火大会では、花火と玉名とを見くらべて、製作者の考えを想像しながら鑑賞するのも一興でしょう。

また、花火が開いて消えるまでの下記①～④の現象をチェックして良否を判断できれば、より一層花火鑑賞が楽しくなり花火通といえるのではないのでしょうか。

- ①「玉の座り」が良い→打ち揚げられた玉がちょうど昇りつめたときに開く。
- ②「盆」が良い→玉の大きさに見合った広がり度、真ん丸く（真円球状に）開く。
- ③「肩」が良い→飛び散る星が放射状にまっすぐ飛んで円形に広がる。
- ④「消え口」が良い→開いた星すべての先端が一斉にパッと消える。



参考：公益社団法人 日本煙火協会